



利根中央病院だより

第60号
2021年 夏号

きらめき



発行責任者 利根中央病院 病院長
編集責任者 利根中央病院 事務長
〒378-0012 群馬県沼田市沼須町910-1
TEL：0278-22-4321（代表）
FAX：0278-22-4393
URL：https://www.tonehoken.or.jp/

呼吸器内科の紹介

呼吸器内科は私と原田医師の常勤医師2名で主に外来・入院を担当し、群馬大学呼吸器・アレルギー内科の非常勤医師2名の外来応援（火、木）を受けています。

呼吸器診療の中で気管支喘息、COPD、間質性肺疾患、肺がん、呼吸器感染症、胸膜疾患、睡眠時無呼吸症候群を診る機会が多いです。気管支喘息では吸入療法の進歩に伴い、大半の方は症状がコントロールされるようになりましたが、一部に難治性の方もおり、好酸球性の気道炎症が強い方では、生物学的製剤の導入も行っており効果を得ています。COPDでは必要に応じて在宅酸素療法、夜間の非侵襲的人工呼吸を導入しています。間質性肺疾患では、診断のために気管支鏡による気管支肺泡洗浄、経気管支肺生検（肉芽腫性疾患が疑われる場合）を

副院長・呼吸器内科科長 吉見 誠至



行いますが、十分な検体量が必要なときには、外科に依頼して胸腔鏡下肺生検を行ってまいります。肺がんの診断の際には、気管支鏡や経皮的CTガイド肺生検を行い、最近進歩の著しい遺伝子変異の検索に努めています。肺がんでは手術適応のある方は、外科に紹介し、放射線治療の適応のある方は、渋川医療センターに紹介しています。当科では化学療法や免疫チェックポイント阻害剤による治療を行っています。積極的な治療の適応のない方は緩和治療を行っています。

病棟では、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、言語聴覚士などがそれぞれの立場で介入してくれています。呼吸器疾患のある方は高齢の方が多く、入院後も症状が安定しなかったり、病状が安定してもADLが低下して在宅には戻れないなど、様々な個

別の事情が生じてきます。ソーシャルワーカーが積極的に介入してくれて退院の支援を行っており、大変助かっています。

今後も地域の呼吸器診療の需要に応えられるように努めたいと存じます。



前列左から4人目：原田医師、5人目：吉見医師

利根中央病院、ユニフォームが変わりました。

Tone Central Hospital Uniform Collection



看護師

看護師と准看護師は、信頼と清潔感を象徴とするユニフォームを選びました。



助産師

やさしさと温かみを印象づけるピンクのラインを選びました。



ソーシャルワーカー

他の職種のユニフォームの色とのバランスなどを考えて選びました。



臨床工学技士

縁の下の力持ちをイメージした紺色ベースのユニフォーム。エンジニアらしく控えめな色合いに。



薬剤師

薬剤師のユニフォームのイメージは「白衣」が根強いので、「白衣」を選択していません。



看護補助者

患者様には清潔感を印象づけるユニフォームを選びました。

介護福祉士

認知症の患者様に元気でやさしさを印象づけるユニフォームを選びました。



検査技師

以前は白衣でした。他の職種と異なる色という事でこの色になりました。



リハビリ技士

リハビリは動きやすさを最優先に！ターコイズブルーでさわやかさをアピール！



放射線技師

長時間の着用でも快適で、機能性も考え、動きやすさを重視して選びました。



調理師

調理師のユニフォームはやっぱり清潔感のある白、ダブルボタンが印象的です。

管理栄養士

管理栄養士のピンクのユニフォームは、女性らしく優しい色合いを選びました。



地域の新型コロナウイルス感染拡大防止への取り組み

当院は地域の感染拡大を防止するため、利根沼田保健福祉事務所と連携して対応しています。

4月下旬から5月にかけて地域でクラスターが複数発生し、高齢者施設へのC-MAT隊派遣や連日の大規模スクリーニングPCR検査などに取り組みました。1ヵ月で500人以上の発熱者を診察し、1,000人以上のPCR検査を実施しました。検査当日に結果を出すため奮闘し、地域の感染拡大防止に貢献す

ることができたと思います。地域の要望に応じて自費PCR検査も始めました。

また、地域のワクチン接種計画に呼応して個別接種を実施しています。

第五波を乗り越えるため、今後も新型コロナウイルス感染症へ対応できるよう医療を提供したいと思います。



大規模スクリーニングPCR検査



個別ワクチン接種



C-MAT隊

きらめき トピックス

フードドライブ活動「おすそわけ」

5月29日（土）、利根中央病院を運営する利根保健生活協同組合とグループ法人「とね虹の会」との共催でフードドライブを実施しました。SDGsの実践として、職員や地域の組合員さんに「食品を無駄にしない。家で使用しない食品を必要な人に寄付する」ための協力を呼びかけました。

コロナ禍でしたが、「生活に困っている人はいる。医療生協として何かできることをしよう!」と、来場者への検温やアルコール消毒、ビニール手袋の使用など感染防止対策をおこない、開催することができました。

当日は約25の方が訪れ、中にはお子さん連れや外国の方もみられ、感謝の言葉を口にしながら必

要な食品や日用品を持ち帰っていかれました。残った食品などは地元のフードバンクへ届けました。今後も地域の困っている方の生活支援として開催を予定していきます。

2021年度 スキルアップセミナー開催

6月19日（土）スキルアップセミナーを開催しました。今回は『高齢者診療』をテーマに、寺澤佳洋先生から「高齢者診療の頭の使い方」、森川暢先生から「高齢者救急」、徳田嘉仁先生から「老衰を真剣に考える」という題目でご講演いただきました。参加者からは、「高齢者診療で役立つフレームワーク(5Ms, DEEP-IN)がとても参考になった」等の感想をいただきました。

5Ms, DEEP-INについてはURL又は、QRコードをご参照下さい。 <https://qr.paps.jp/voGHY>

